

1.実習校について

○実習校名	〇〇市立〇〇中学校
○教科	社会科
○担任(学年)	第2学年
○部活	バレーボール

2.実習の成果(できたこと、得たもの等)

○授業・教科

社会科の授業では、生徒にとって身近な事柄を取り上げ、資料を読み取る活動や生徒の意見を聞き出す活動、グループ活動を行い、生徒の興味、関心を高め、生徒が意欲的に学習活動に取り組めるような授業展開を行った。また、自分が説明するだけでなく、動画等を活用し、生徒の集中を切らさないような工夫をしたり、机間巡視を適度に行い、生徒の理解度を把握し、説明を加えたりすることができた。

道徳科の授業では、積極的に先生方の道徳科の授業参観に行き、授業展開や発問の仕方の工夫を学び、指導書を参考にしながら授業展開を考えた。登場人物の心情の変化や登場人物を自分に置き換えて考えさせる時間を設定し、生徒が題材の内容を自分ごととして捉え、考えることができるような発問を行い、多くの生徒から意見を聞き出すことができた。

○学級経営

2年生は春季総体後に体育祭を迎え、その1週間後には職場体験を予定していたため、行事が多く多忙であり、連絡事項や提出物が多くあった。しかし、その連絡事項を全て口頭で説明するのではなく、生徒が自主的に連絡を確認し、行動に移すことができるよう学級担任の先生は紙面に主な連絡を記載し、重要性の高い連絡のみを朝のホームルームで話すようにし、全体指導を最小限にされていた。また、積極的に生徒と関わり、朝のホームルーム前から教室にいて生徒とコミュニケーションを取り、トラブルが起こる可能性の高い生徒の観察を徹底的に行っておられた。給食や掃除では生徒同士で協力しあい、効率よく行動する姿が見られ、特に自分が指導を行うことはなかったが、自分も生徒と共に給食準備や掃除を丁寧かつ迅速に行うことを意識して、取り組んだ。

○部活

部活では、生徒が主体となって活動していたため、プレーについて少しアドバイスをしたり、生徒が取り組みたい練習を聞いた上でボール出しやボール拾いなどの手伝いを行ったりした。部活の頻度が週に3回程度であることから、貴重な部活の時間を無駄にせず、短時間で内容の濃い練習を行い、春季総体や夏季総体に向けた練習を行う必要があると感じた。

○生徒対応(生徒とのふれあいも)

1週間目は自分自身も生徒も人見知りをしている状態でうまくコミュニケーションを取ることができなかったが、給食の配膳や掃除などのルールでわからないことがあったら積極的に生徒に聞くように心がけ、部活や休みの日

にしていることや最近の流行りなどを生徒から聞き出したりしてコミュニケーションを取るように意識した。また、生徒は連絡帳のようなノートを毎日提出するため、2 週間目からそのノートのチェックを担当し、コミュニケーションを取るための 1 つのツールとして活用し、質問しあったり、絵しりとりなどをして生徒と関わることができた。昼休みには、体育館が使える日に一緒にボールで遊んだり、教室で世間話をしたりして生徒と触れ合い、体育祭や体育祭練習の際は、学年関係なく、多くの生徒とダンスの練習を一緒にしたり、誰かの競技中に応援したり、準備や片付けを一緒に行き、どの学年の生徒とも積極的に関わることもできた。

3. 実習でできてきた課題(できなかったこと等)

○授業・教科

社会科の授業では、導入の工夫が足りなかった点が課題点である。生徒の興味、関心を高めるような写真等の提示を行ったり、問いかけを行うなどの方法を活用していきたいと思った。2 つ目の課題点としては、資料を読み取る活動を積極的に取り入れたものの、資料の読み取り方の説明が端的すぎて、生徒の資料の読み取りが浅く曖昧になってしまっていた点である。生徒に資料をより詳細に読み取らせることができるように説明を加えたり、読み取り方があまり理解できていない生徒に向けて補助発問をしたり、目的や視点をヒントとして与えたりなどといった工夫を行う必要があると考えられる。また、生徒が不完全な回答をした際に、教師の立場である自分が解釈をして答えを導いてしまっていたが、問い返しを行い、生徒自身が自分の意見をより具体的な意見にすることができるようサポートする立場に回るよう心がける必要があると考えられる。生徒のどのような回答、発言に対しても柔軟に対応できる能力を身につけていかなければならないと思った。

道徳科の授業では、学級担任の授業の流れを参考にし、モニターに発問に対する生徒の意見を提出させるよう指示し、モニターに約 30 人の意見が提示されるようにした。そして、生徒に気になる意見を聞き出し、その意見を出した生徒に理由や根拠を聞くという生徒が主体的になるような授業展開を実践した。授業前半は偏りなく多くの生徒に意見を聞き出すことができたが、後半にかけて発言させる生徒を誰にするべきか悩んでしまい、積極性のある生徒に発言させる機会を多くしてしまった点が課題点である。また、具体的な内容を初めから提示した発問をしてしまっていたため、理由や根拠の深みがなくなってしまった点も課題である。抽象的な表現を含ませた発問にすることで生徒の豊かな発想力による考えや理由を引き出すことができるため、発問の仕方を工夫する必要があると考えられる。

○学級経営

朝と帰りのホームルームでは、長々と話してしまうと次の行動の遅れをとってしまうため、短く話すことを意識した。そのため、連絡事項に加え、行事や悪天候、熊の出没に関する注意喚起くらいしか話すことができず、生徒の印象に残るホームルームにすることができなかった。近頃のニュースを調べてはいたが、生徒が興味を持つようなニュースを見つけることができなかった点が課題点である。

○部活

部活には、経験者と初心者がいるため、練習内容や指導方法に十分な配慮と工夫が必要だと感じた。特に上級生と下級生の技術力に大きな差があった場合や試合前の場合、初心者やベンチの生徒を放置してしまう傾向が高くなると考えられる。そのため、異なる状況に置かれた生徒たちの練習の時間配分に注意し、生徒の体調や心情に寄り添い、全体に目を配る必要があり、どの部活の顧問になったとしても気をつけるべき点だと思った。

○生徒対応（生徒とのふれあいも）

生徒対応においては、積極的に話しかけてきてくれる生徒とそうではない生徒がいるため、各生徒との関わる時間に差が生じてしまった点が課題である。関わる時間があまり取れていないと感じた生徒とどのような工夫をして関わる時間を増やしていくべきなのかを考える必要があると思った。そのためには、それぞれの生徒が興味を持っている事柄について話を広げることができるよう、本やスポーツ、ニュースなど様々な分野に興味を持ち、自分の引き出しを増やすことが重要だと考えられる。

4.実習を行った感想

3 週間の実習を通して、小規模の学校であり、体育祭があったため、全学年の授業参観に行ったり、体育祭練習を一緒にしたりすることができ、全学年の生徒と関わりを持ち、積極的にコミュニケーションを取ることができた。授業や体育祭練習では一人一台、タブレット端末を持っていることから、情報や意見を即座に共有したり、タブレットでレポートを作成したり、動画を視聴してダンス練習をしていたりと学習活動や行事の運営を生徒が主体となることができるようにされていた。私が担当した2年生は6月に職場体験を控えていたため、総合的な学習の時間では職場体験に向けた準備や取り組みがされており、地域の方によるマナー講座があったり、履歴書作成を行ったりと、職場体験だけに焦点を当てるのではなく、今後の進路も意識した実践的な取り組みを行い、生徒の実践意欲を促進させていたことが印象に残った。

5.今後に向けて

教壇実習を経験し、学習指導案を作成する上であらゆる視点から生徒の反応を考え、予想し、その対策を立てた上で対応することが重要であると思った。説明や発問を提示した際、思わぬところでつまづく生徒がいたり、一度の説明や発問の提示だけでは理解できない生徒がいたりして、理解度の差が生じている場合の対応を素早くすることができなかった。今後、柔軟な対応能力を高めるために、多様な視点を考慮した上で授業展開や発問の仕方を工夫し、それに加え、モニターやワークシート作成を工夫し、補助発問を準備しておくことが必要であると感じた。